

中学2年4組 英語科学習指導案

指導者 須田 香 織

「知りたい」「伝えたい」思いをくすぐりアメリカのペンパルとリーディング・ライティングを通して交流する場面を設定し、班で話し合ったり、疑問や課題を明確にしてから他の班の作品を見に行ったりするような学び合いを取り入れたことは、自分の生活・文化が相手によく伝わるような内容や構成を考えて手紙を書くことに有効であったか。

1 単元名 届けアメリカへ

～Unit 3 ペンパルに伝えるためのリーディング・ライティング～

2 単元のねらい

リーディングを通して相手の意向や意図をくみとり、自分の伝えたいことや伝えなければならないことを整理して手紙に書いて表現することができる。

3 授業の構想

(1) 図1の写真は、第1学年の3学期にアメリカのペンパルからの手紙が届いた時のものである。生徒一人一人の名前入りで届く手紙は、辞書を使ってでも自分の力で読みたくなるほど魅力的なものであった。多くの生徒が書かれている内容を自信をもって理解したいと願い、さらに相手の質問に応じたり、自分の新しい情報を伝えたりして、もっと仲を深めたいと感じる瞬間となった。第1学年時には手紙以外でも、アメリカからの訪問者や島根大学の留学生との



図1

交流、アメリカとつないで行ったテレビ電話での質問タイム、ペンパルに送るために作成した松江紹介ビデオといった海外との交流を繰り返してきた。その都度、相手意識や目的意識をもちながら課題を解決していく学習を進めてきた。その結果、英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しいと感じている生徒が多い。特に、オーラルでのコミュニケーション活動に積極的に取り組み、写真を介して会話をしたり、写真について描写したりするピクチャートークは人気の活動である。さらに生徒の欲求として、前述した通り、リーディングやライティングにも関心が向いており、もっと自分のことを伝えたい、相手のことを知りたいと感じている。こういった生徒の思いを踏まえた上で、リーディングやライティングの技術を向上させ、相手の意向や意図をくみとりながらコミュニケーションを図る姿を期待したいと考え、本単元の授業を構想した。

(2) 文法事項として不定詞を学ぶ。不定詞を用いて、目的を述べたり説明を加えたりすることで、伝えたいことを整理したり詳しく述べたりすることができるものである。言語材料の使用場面としては、動作や行動の目的を表現する副詞的用法と名詞を詳しく説明する形容詞的用法の性質から、自分の身の回りのものの説明や日常や過去の行動についての目的を述べることができる。よって、言語活動では、自分の行きたい国とその理由を作文にしたり、アメリカのペンパルから送られた日本についての作文を読み、それに情報を付け加えたり、必要ならば情報を訂正したりする活動を行う。以前、指導者がアメリカの交流先の学校を訪れたときに、生徒が手を合わせてお辞儀をして「ありがとう」と言った。迷った結果、日本の生

活・文化を紹介するよい機会だと考え、日本の生活でお辞儀や合掌はいつ、どんな意味であるのかを説明した。現地の先生は、日本ではお礼を言う時に合掌してお辞儀をすると本で読んだのに、とショックを受けていた。挨拶、お辞儀、合掌にもそれぞれ意味があるが、私たちの生活では何気なく行っているため、普段改めて考えることはない。

この単元でアメリカから日本の生活・文化について書かれた作文を読むことで、生徒自身の生活・文化を振り返る機会としたい。アメリカの中学生にも分かるように説明するのは容易ではないが、海の向こうの友が知りたいと願っているのであれば、生徒たちはどのように書けば相手が分かってくれるのかを模索しながら書くのではないかと考えている。

- (3) このような本単元のもつ性質と本学級の実態を踏まえた上で、本単元での手立てを以下のように展開する。本単元の最終には、手紙を通してアメリカのペンパルとお互いの生活・文化紹介を行う。人は誰も知りたい欲求がある。本学級の生徒もそうであり、特に外国の生活・文化については興味を示している。もうすでに興味がある、または知りたい情報を本やテレビから得るのではなく、大好きなペンパルから教えてもらうことに二重の喜びを感じ、それが主体的に学ぼうとする原動力となると考える。日本で生まれ育った生徒は、比べる対象がないことから日本独自のものは何かが分かりにくい。例えば、私たちの生活に溢れている幟がそうである。街を少し歩けば必ず目にするもので、私たちの生活に密着しており、生徒にとっては日本独自のものと気付きにくい。また、多くの移民が生活しているアメリカでは、食文化も様々であり、箸は広く使われるものとなっている。しかし、それを知らなければ、箸が日本文化を代表し海外では珍しいと誤解をするであろう。よって、この単元では、アメリカ以外の諸国の生活・文化を少しずつ教師が紹介する。そうすることで、日本との違いに気付き、日本の生活・文化を改めて考える機会となる。

また、本時ではアメリカのペンパルが日本の生活・文化について学んだことや知っていることを書いた作文を読む。生徒はその手紙に自分の情報を付け加えたり、必要ならば訂正したりする。リーディングを通して、相手が何を伝えようとしているのか意向や意図をくみとり、内容が相手に伝わるように自分たちの生活・文化を手紙に書く。交流を続けているペンパルが書いてくれるからこそ、読みたいと感じ、自分の生活を伝えたい、誤解しているのであれば、正しい情報を伝えたいと意欲が向上するはずである。そして、どんな表現や構成がいいのかを班で話し合ったり、他の班からも参考にしたい点を学んだりして、よりよいものを作り上げていく。このように、伝えたい相手がいれば、伝えたい内容があることはコミュニケーションを支える重要な柱である。この柱があるからこそ相手に伝わるように自分の生活・文化について内容や構成をよりよいものにしようと試行錯誤することができる。

4 展開計画（全10時間 本時9／10）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	なぜそうするのか理由や目的を説明しよう。	1 2	・カードインタビューゲームをする。 ・不定詞を含む文の意味・構造および、その運用について理解する。 ・ピクチャートークをする。
2	ベストポスタープレゼンターは誰だ！	3 4 5 6	・Hi, friends! (小学校の教材) を用いて、I want to be a…の聞き取りをし、当時なりたかった職業を書く。 ・ピクチャートークをする。 ・不定詞を含む文の意味や構造および、その運用について理解する。 ・行きたい場所のポスターを作り、まとまりのある文章で作文を書く。 ・名前を伏せた作文を読み、ポスターとマッチングする。
3	相手の意図を探ろう。	7 8	・教科書を用いてジグソーリーディング(Suda version)をする。 ・教科書に出てくるSpringに自分の勉強方法を紹介する。 ・不定詞を含む文の意味や構造および、その運用について理解する。

4	届けアメリカへ 国際交流を通して、 自国の文化を紹介し よう。	⑨ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャートークをする。 ・説明文と写真を合わせる活動をする。 ・アメリカのペンパルに手紙を書く。 ・テレビ電話で中間報告をする。 ・手紙を完成させる。
---	--	-------------	---

5 本時の学習

(1) ねらい

内容が相手に伝わるように不定詞を用いて、自分の生活・文化についての情報を付け加えたり、必要ならば情報を訂正したりするなどして手紙を書くことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 本時の流れとめあてを確認する。 2. ピクチャートークをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで写真について説明する。 ・全体で共有し、参考にしたい表現を次の活動で使ってみる。 3. 説明文と写真を合わせる活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカのペンパルによって書かれた身の回りのものの説明文を読み、その内容に合う写真をそれぞれ選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しがもてるように、流れを提示する。 ・不定詞を含む文と既習表現をつなぎあわせ、どこで何を使えばよいのかを共通理解するために、全体で確認をする。 ・次の手紙で使うために、参考にしたい表現や構成を全体で確認する。
内容が相手に伝わるように、自分の情報を伝えたり、訂正したりして私たちの生活・文化をより深く知ってもらおう。	
4. アメリカのペンパルに手紙を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペンパルからの手紙を読む。 ・誤解をしている点や加えたい情報を整理し、どのように伝えると分かりやすいかを話し合いながら手紙を書く。 ・班で疑問や課題を明確にしてから、他の班の表現や構成を見て参考にする。 班で一人は残って作品の解説をしたり、質問に答えたりする。 ・全体でどの班の何を参考にしたか発表する。 ・自分たちの手紙に書き足す。 5. 全体で本時の学習を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞の活用や内容・構成について疑問や課題を明確するために、課題記録シートを渡し、どの班の何が参考になったのかを全体で確認する。この際、3で使用した説明文を提示し、モデルにする。 <p style="text-align: center;">— 評価の観点（外国語表現の能力） —</p> <p style="text-align: center;">内容が相手に伝わるように不定詞を用いて、自分の情報を付け加えたり、必要ならば情報を訂正したりして手紙を書いている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 手紙】</p> <p>支援</p> <p>班で話し合う機会を設ける。他の班から学べるように、見て回る時間を設定する。</p>

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎班で話し合ったり、他の班の手紙を参考にしたりして、自分の伝えたいことや伝えなければならないことを考えて手紙を書いている姿